

# 生態系のなかの農業

超活性炭の効果で  
水・土・空気を浄化、維持する

著者 上田亮一

# 目 次

はじめに	3
1. 人工自然としての農地	5
2. 土壌三相の適正バランスを考える	8
3. 超活性炭	13
4. 栄養周期栽培技術の理論の要約	27
5. 大地の土壌菌、その種類と役割	39
6. 光合成	51
7. エネルギーを蓄積、ATP（アデノシン三リン酸）の消費と生産	54
8. 栄養素「窒素」の重要性と毒性	60
9. 微量元素の酵素的な働きと過不足の確認・調整方法	70
10. 栽培技術の基礎となる各生長ステージの概念	96
11. 農業における微生物の役割	108
12. クラスタ細分化された水	120
13. 防風林の害虫被害の対策	129
14. 自由経済競争社会により弱小化される農耕社会	139
参考文献	146

## はじめに

活性炭は、現代では一般用語として常識化されている。炭は、人類が火を利用する生活の中から、その効用について知られていたようである。

例えば中国では、2千年も前に、王妃の墓に多量の炭が埋設されていた。そしてわが国でも、古い墓から炭が埋設されていた事が判明されている。また、古い家屋の土間の「たたき」にも、炭が利用されてきたようである。生活の一部として炭は、先祖たちに密着していたようである。

そして、炭から活性炭へと、その物理性を追求する過程で、太陽から降り注がれて地表面に散在している自由電子( $e^-$ )を、活性炭が誘引している事が認められるようになっていく。

水・空気・土の汚染要素として、陽イオンが介在している事が知られている。そして、自由電子( $e^-$ )は、これらの陽イオンの働きを打ち消す事ができる。したがって、水・空気・土の浄化には、活性炭により誘引される自由電子( $e^-$ )が欠かせない存在であると思われる。

我々の生命にとって、浄化された水・空気・土の影響は大きいのである。なぜなら、健全な野菜等は生態系の機能の内から得られるからである。

自然環境すなわち水・空気・土の浄化が、絶対の条件なのであり、我々の体自身が五感機能によって、浄化された自然環境を求めているのである。

現代の農業は、一時的多収穫を求めるあまり、物理化学的反応を最大なものとして、植物体が生命維持のために求めている養分吸収の時期等を見捨て、強制的に作り上げられた物が多いのである。勿論、不健全な物がほとんどである。

私は40数年前、大病にかかり、医療機関にて一命を取り留めた。しかしその時点での医療的見解では、長くても数年の命であると指摘され、病気をかかえたまま退院を余儀なくされた。

それを乗り越えるには、自分自身の生活の中で、良い水、良い空気、良い食物を取り入れる事が重要であると考えた。

自分の体を良い環境に置き、体の機能を充分発揮できるように努めてきた。そのような生活条件の中で、健全な安心できる食材を求めて行動してきた。

この行動を始めて40年近くになるが、健康な野菜の生産を求める農家を探し続けてきた。そこで、農家の皆様と共に、環境浄化のもと、農業生産物の質を整えるには、どうしたら良いのか、毎月、検討会を開いてきた。

結論から言うと

- ・動物も植物も、それぞれ生態系の中での役割を担っている。
- ・生態系の機能を崩しては、健全な動物も植物も得られない。

という事がわかった。

そのような見解を持続させながら、農業本来の在り方を求めているきたいと考えている。

以下、本題にて具体的な考え方を示して述べていく。